特集 “支援”について考える
～人権啓発フェスティバルin大阪(ハートフルおおさか2010)出演者にきく～

社会的に困難な状況に置かれた人たちがクローズアップされ、一方、それに対する支援の輪も広がっている。
そして、その“質”や“あり方”が問われているいま。
「してあげる」、「してもらうという」関係ではなく、対等でお互いが満足できる関係でいられる支援、持続可能な支援とは何か。
今号は、11月に大阪で開催される人権啓発フェスティバルに出演されるお二人のお話から、“支援”について考える。

子どもたちの力を信じる それがほんとうの 支援だと思う

KONISHIKIさん
元力士、タレント・歌手

圧倒的な存在感と明るいキャラクターで親しまれてきたKONISHIKIさん。1980年代から90年代にかけて初の外国人大関として活躍、引退後はテレビ出演や全国各地でのライブ活動をおこなっている。精力的な活動の根底にあるのは「自分を育んでくれた地域社会に恩返ししたい」という強い思いだという。

ぼくが生まれ育ったのは、ハワイ・オアフ島のリーワードエリアにある、ナナクリという地域です。ハワイといえばワイキキ・ビーチや一流ホテルを思い浮かべる人が多いと思うけど、ナナクリは経済的に厳しい状況にある人が多く、多くの家庭がなんらかの生活援助を受けています。

なぜ経済的に苦しいかというと、給料が安く、不安定な仕事にしか就けないから。じゅうぶんな教育を受けられなかったことが大きな理由の一つだと思います。子どもたちの親も2つも3つも仕事をかけもちしていることが多いのです。だから学校から帰ってきても、家に誰もいない。そこで親を助けるためにいっしょうけんめい家事をする子もいるけど、やんちゃで「かっこいい」先輩のまねをしようとする子もいます。ちょっとしたきっかけで、その先が全然ちがってくるんです。

地域そのものの環境も厳しいです。車で10分も走ればショッピングモールやきれいな公園があるのに、ナナクリにはぼろぼろの公園しかない。同じ公立小学校でも、ナナクリの小学校はなぜか教育予算の割り当てが少なくて、エアコンも新しいライブラリーもない。

家庭も地域も厳しいなかで、それぞれがどう乗り越えるかが重要です。厳しいことをバネにして、自分たちがもっているものでがんばっていこうという気持ちで、1997年に「KONISHIKIキッズ基金」を設立しました。子どもたちに“夢を持ち、忍耐強く努力すれば何事も達成できる”ということに気づくチャンスを与えたいと思いました。

ぼく自身は、勧めてくれる人がいて、中学3年の時に地元の学校から地区外の進学校へ転校しました。新しい世界と出会って、さまざまなことを知り、学びました。同級生たちは今、弁護士や医者、大学教授になっています。一方で、地元の同級生が成功したという話はほとんど聞きません。この違いは、その人に問題があるのではなく、与えられた環境や機会の差です。ナナクリ地区の子どもたちも小さなコミュニティから飛び出す機会があれば、世界観が変わるはず。夢をもち、ねばり強く努力すれば、自分たちだって何かをなしとげたり、安定した生活を送ることができることに気づいてほしい。「KONISHIKIキッズ」がそのためのチャンスになればと思っています。

具体的には、毎年35人の小学6年生を日本に招待しています。お茶やお花といった日本の文化に触れたり、お相撲さんの稽古を見学したりします。日本の小学6年生との交流もあります。実際に日本で作られる様々なものを見せると「日本というちいさな国がこんなにすごい製品を作り、すばらしい文化をもっている」ということが、子どもたちにはすぐわかります。そうして感じ取った日本のいいところを少しでも持って帰ってくれるのがなによりのおみやげになります。

なぜ小学6年生なのかというと、中学生になればほとんどおとなの世界だからです。学校のなかでも高校生や大学生に混じって生活し、「若いおとな」として扱われます。その前に、日本を訪れるという経験を通じて自分なりの夢をもってほしい。夢があれば、イヤなことと闘う気持ちになれます。

今年で13年目を迎えましたが、「KONISHIKIキッズ」になった子どもたちの約8割が大学に進学しています。地区の2つの高校を合わせた大学進学率が2%なので、かなりの数字です。もちろん、大学進学だけがすべてではありません。大学に行かなくても、安定した仕事を得るためにはどうすればいいか、自分で考えてノウハウをつかんでほしいと願っています。

「ぼくは相撲という世界に育てられ、助けてもらった」と話す。その経験から、未知の可能性をもつ子どもたちへの支援には、子どもたち自身がもつ力を信じることが何より大切だと考えている。

ハワイからやって来た、相撲を全然知らないぼくに、親方は「小錦」という立派な名前をつけてくれました。初めから「こいつは強くなりそうだな」という目で見てくれていたようです。

稽古は厳しかったです。ふつう、新弟子といえば朝早く稽古場に入るけど、終わるのも早い。掃除やちゃんこ番をするためです。でもうちの親方は、ぼくに誰よりも長く稽古をさせた。「なんでぼくだけにこんなに厳しいの」と不満に思ったこともありました。今なら、ぼくの力を信じて、本当に強くなるために稽古させてくれたんだとわかります。

親方は、厳しいだけではありませんでした。親方だけでなく、先輩も後輩も言葉や飲み会、食事を通じて気持ちを支えてくれました。だから、イヤなことがあっても相撲に集中できました。土俵にあがる時は一人だけど、支えてくれる人たちがいると思うと強い気持ちでいられました。バランスのとれた厳しさとやさしさのなかで育ててもらったと感謝しています。

支援とは、お金ではありません。その子自身がもっている力を信じ、コミュニケーションをとりながら見守ることが何よりも大事だと思います。

「KONISHIKIキッズ」では35人の子どもしか日本に連れてこられません。もっと広く、たくさんの子どもたちに支援を届けたいと、毎年公立小学校に寄付をしています。今年からはハワイの自宅を開放して塾のようなものを始めました。教育予算がどんどんカットされるなかで公立小学校が週休3日になり、授業のある日もお昼すぎには終わってしまうんです。子どもたちにもっと学ぶ機会を与えたいし、放課後の居場所が必要だと考えました。先生たちもボランティアで勉強を教えてくれています。ナナクリ地区には約150人の小学生がいますが、家の目の前にあるビーチでおばあちゃんからハワイの歴史の話をしてもらうのも勉強だし、庭にテントを張れば、そこでも勉強できる。うまく使えば、みんな一緒に学べます。

夢は大きく、もち続けることが大切。いつか地元にちゃんとしたビルを建てて、親が働いている間、子どもたちが勉強したりリラックスできる場所をつくるというのがぼくの夢です。このパッション(情熱)があるから、仕事もいっしょうけんめいがんばれます。

歌だからこそ伝えられる

～気持ちを温め、ただ傍にあることで人は人に支えられる～

平松 愛理さん
シンガー・ソング・ライター

1989年のデビュー、1992年にレコード大賞作詞賞の受賞があるなど、シンガー・ソング・ライターとして歩んできた平松さん。だがその道のりは決して平坦ではなかった。闘病から休業、阪神淡路大震災、そして再出発。悲しみや喜びから得た糧でより深まりをみせた平松さんからのメッセージ。
生きることの意味や支援についてきいてみた。

――平松さんの「喜びも悲しみもすべてがギフト」に込められた思い

最近、ただ時間を過ごすということではなくて、“どうやって生きていくのが一番自分らしくいられるか”を意識しています。また、そういう時間の使い方をしています。ある時から、「人は生まれついた瞬間から死というゴールに向かっているんだ」という事実に強く気づかされました。これをすごく健康な人や、一度も病気をしたことのない人とかに言うと、何て後ろ向きな、という人が多いんですが、でも、実はこんなに前向きな考え方はないんです。生まれついた瞬間からもうカウントダウンは始まっていて、生きることが終焉（しゅうえん）に向かっている。「じゃあ自分は何をしたらいいのか」という、前向きな発想から来ているものです。

なので、そのゴールに向かって持って行くものは、地位や名誉やお金じゃない。目に見えない自分の心というものが豊かであるかどうか、それだけをめざして生きていきたいなと思って日々過ごしています。失敗しても、もう一回原点に立ち戻る。どれだけ考えをそこに戻せるか、それが生きることだと思っています。

“喜びも悲しみもすべてがギフト”というのは、いいことにも悪いことにも、必ず学ぶべき点があるということですね。

喜びは、喜べる自分をとても嬉しく感じています。私が“喜べる”理由になっている廻（まわ）りの人や、物に感謝をする、ありがたいという風に心の底から思います。

悲しみは、悲しみを知らないと人にやさしくなれないと思うんです。悲しみは本当に辛いことです。けれど、その悲しみを知り、抱えつつ嬉しいことに出会うからこそ、もっともっと嬉しいことになるんです。どちらも同じくらい私に学びというものをくれる産物です。

――阪神淡路大震災復興支援ライブを継続し、レインボーハウスへの援助も続けてきた思い

まず第一に、神戸という街が大好きだということが気持ちの根っこにあったことが本当に大きかったですね。

一番最初に震災遺児の心のケアハウス「レインボーハウス」の完成記念式典で、ご遺族の方々が深い悲しみの中、「美し都～がんばろやWe love KOBE」を歌って下さいと言われました。あの日、あの瞬間の人の命、心、生命力。音楽の在り方、歌の力、そういうものを初めて知る機会となりました。レインボーハウスにあの日行かなかったら、阪神淡路大震災復興支援ライブのKOBE MEETINGは存続していたのかな、と考えます。

自分に子どもがいるというのも大きいかなと思います。もし自分に子どもがいなかったら、子どもの立場で震災により親を亡くしてしまうというのはどんなものかと考えてしまいます。遺児の子どもと同じ気持ちにはなれないかもしれないけど、子どもを持つ親としては先立たなくてはならなかった気持ちはどんなだったんだろう、と推し量ることはできると思うんです。

このような思いを支援してくださる廻りのスタッフの方々、ずっと来て下さるKOBE MEETINGの参加者（お客様）がいたからこそ、なんとかここまでやってこれたと感謝しています。

――平松さんにとっての支援の意味

同じ経験をしていないから、その人と心を同じくすることはできないかもしれません。傍(そば)にいて言葉で頑張ってという訳でもなく、歌で気持ちを温めることとか、ただ気持ちが傍にあるとか、そういうことで人は人に支えられる。そうして、深い悲しみから少し光が見えたり、きゅっと固まっていた気持ちや構えていたものが少しほぐれたりしていく。そういうことは可能ではないかと思っています。

それを私は音楽で応援という形でやっていけたらなと思っています。それは、誰かの傷とか街の傷とかに向けてだけでなく、外への呼びかけとして被災地以外の人たちや、次世代の人たちに震災を伝え続けていくということです。街に足を運んでもらうとか、常に注目してもらうとか、心を寄せてもらうとか、それが次世代の人たちにも伝わっていく、と思っています。

あれだけ沢山(たくさん)の方が亡くなったという意味を、今を生きている自分たちがどこかでちゃんと感じて生きていくことは大切です。

――シンガー・ソング・ライターとして、歌で伝えていきたいこと

頑張(がんば)っている人に「頑張って」と言葉はかけられません。でも歌ならそれを伝えることができる。この事実はラブソングがずっと存続し続ける大きな理由だと思います。普通に愛してると言えなくても、ラブソングで I love you と歌える。言葉にメロディーをのせるというのは、人の気持ちを伝えることができるすごい手段です。また何年か前によく聞いていた歌を今聴くと、その当時のことをすごく思い出したりもします。季節、匂い、自分が体験し感じたこと、五感に記憶しているものが蘇(よみがえ)ってくる、そういう力を持ち合わせています。

そういう歌というのを作って歌えていることって、本当にラッキーだなと思います。その歌の力を間違うことなく、誰かの心の支えになれますように、温めることができますように、癒せることができますように、という想いを今後も歌にして届けていきたいなと思っています。

平松 愛理ホームページ
http://www.hiramatsueri.com

ハートフル おおさか 2010 イベントスケジュール

11月6日㊏

O's南 ATCホール

Aホール

■オープニングセレモニー（10:00~10:45）
開会挨拶、歌手・大和田りつこさん、岡崎裕美さんや幼稚園児などによるフェスティバルテーマソング披露等。

■小錦八十吉スペシャルトークショー「ニッポン人として！　国際人として！」（11:30~12:30）
これまでの人生の感動のドラマを熱く、ユーモラスに語ります。

■「う～み　ふれあいトーク&ライブ」（14:00~15:00）
人と人の絆や、心の交流をテーマに活動する「う～み」さんによるトーク&ライブ。

■「こころの再生」府民運動 トークセッション（15:45~17:00）
狂言師 和泉元彌さんと華道家 池坊美佳さんが、日本の伝統文化・芸術の発展と、受け継がれる大切な心について、語り合います。

Bホール

■府人権関連施策トピックスの紹介（10:45~11:15）
■「AED心肺蘇生法の体験ステージ」（13:00~13:30）
■「草の根人権活動賞」受賞者の活動発表1（15:00~15:45）

Dホール

■桂かい枝の～みんな落語で笑わせまっせー！（10:00~10:45）
世界中で英語落語を公演している桂かい枝さんの異文化交流体験トークと英語落語体験会。

■英語落語コンテスト（11:15~12:45）
関西の学生による「英語落語」のコンテスト大会。

■人権シンポジウム（（財）人権教育啓発推進センター）（14:00~17:00）
人権を身近なものとして考えるきっかけとなるように、様々な人権分野で活躍されている方をパネリストにお招きします。

11月7日㊐

Aホール

■それいけ！アンパンマン ショー「アンパンマンと正義の仲間たち」（1回目：10:00～10:30、2回目：13:15～13:45）

■青春ストリート（11:00~12:15）
高校生によるダンス、フォークソング、軽音楽、和太鼓のパフォーマンスステージ　［出演］今宮高校（ダンス部）、住吉商業高校（フォークソング部）、鶴見商業高校（軽音楽部）、芥川高校（和太鼓部）

■国際人権フォーラム「日本・大阪の行動と未来」（14:15~15:30）
FM　COCOLOのDJ・MEMEさんをコーディネーターに、国際色豊かなフォーラムを開催

■平松愛理ハートフルコンサート（16:15~17:00）
「部屋とYシャツと私」で知られる平松愛理さんの、こころ温まるやさしい歌声で、「ハートフルおおさか2010」のフィナーレを飾ります。

Bホール

■郷土芸能（福岡県筑前町）「三輪太鼓」（10:40~11:10）
■「補助犬ふれあいステージ」（12:40~13:10）
■「草の根人権活動賞」受賞者の活動発表2（13:45~14:30）
■府人権関連施策トピックスの紹介（15:30~16:00）

Dホール

■男女共同参画に関する講演会（10:00~12:00）
ユニフェム（国連女性開発基金）日本事務所所長代行　ステイヌン・グッドヨンスドッテさんによる講演等。

■犯罪被害者の人権等を考える「人形劇&講演会」（14:00~16:00）
全国犯罪被害者の会（あすの会）関西集会の会員による人形劇「悲しみの果てに」と犯罪被害について語る講演会。

■行政関係・ボランティア団体・NPO法人による、活動実態や啓発資料等のブース展示（10:00~17:00）　**■人権啓発資料展**（10:00~17:00）

O's南6F コンベンションルーム

コンベンションルーム1

■「住宅の確保に係る人権問題」関係業界団体等によるシンポジウム（10:15~11:45）
■映画「カールじいさんと空飛ぶ家」特別上映（1回目：12:30～14:06、2回目：15:00～16:36）

B2会議室

■人権問題関連研修会1　（13:30～15:30）

コンベンションルーム1

■守ろう女性のこころと体（10:15~11:45）
トークサロン「女性たちからのメッセージ」体と性の相談からみえてきたもの（ウィメンズセンター大阪）／Rio & Syugaコンサート
■映画「カールじいさんと空飛ぶ家」特別上映（12:30~14:06）
■「ハンセン病問題」って、なあに？～ハンセン病回復者と学生による語り・唄～（15:00~16:00）
（全国ハンセン病療養所入所者協議会 事務局長 神 美知宏さん　他）

B2会議室

■人権問題関連研修会2・3（10:00~12:00、13:30~15:30）

B3会議室　■法務なんでも相談所（11:00~16:00）　**（大阪法務局・大阪府人権擁護委員連合会）**

ITM

10階・サンセットホール

■英語落語コンテスト表彰式・優勝者実演会（13:30~14:30）
■サンセット・音楽会（16:00~17:00）
大阪府立夕陽丘高等学校音楽科生徒によるソロ・アンサンブル。

屋上・フットサルコート

■松竹お笑いタレントチーム特別参加！！
大学サークル対抗フットサル大会（13:00~16:00）

11階・エイジレスセンター　■福祉・介護機器の展示・紹介、体験コーナー（10:00~17:00）

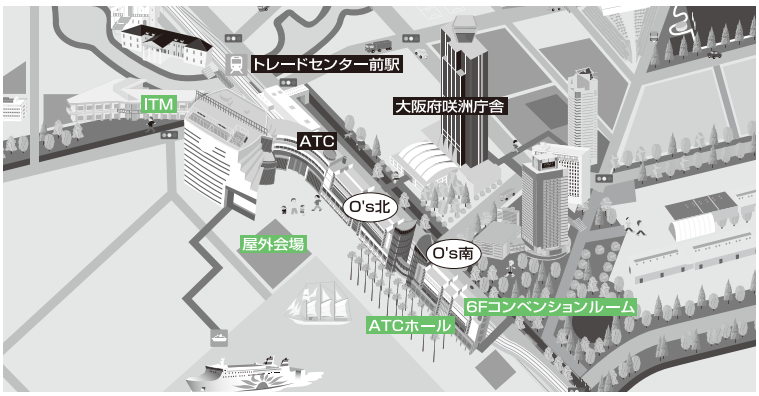
屋外会場

■ミニ電車の運行（星翔高等学校）（11:00~16:00）　**■観光・物産展、飲食、物品販売**（6日（土）10:00~17:00　7日（日）10:00~16:00）

全体

■「ハートフルクイズラリー」楽しく回って学びましょう！！（6日（土）10:00~17:00　7日（日）10:00~16:00）全てのラリーポイントを回った方には、すてきな景品をプレゼント。

会場案内図



会期

平成22年 11月6日㊏・7日㊐

会場

ATC・ATCホール及びその周辺施設
アジア太平洋トレードセンター
地下鉄・ニュートラム「トレードセンター前駅」下車直結　時間 10:00~17:00

イベントの詳細は下記までお問合せください。

府民お問合せセンター（ピピッとライン）#8001
または TEL06-6910-8001（平日9時~18時）　FAX06-6910-8005

ホームページアドレス
http://www.pref.osaka.jp/annai/moyo/detail.php?recid=6591